

# 血液学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ←遠心→ 提出量 (mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
1301	白血球数 (WBC)	EDTA加血液 各2	13	冷 凍 精 不 可	自動化法	/ $\mu$ L	21 血液 1	1	手透
	4,000~9,000								
	$\times 10^4$ / $\mu$ L								
	M 440~560 F 380~480								
	g/dL								
	M 13.8~17.2 F 12.0~15.5								
	%								
	M 37.0~52.0 F 35.0~45.0								
1302	赤血球数 (RBC)								
1303	血色素量 (Hb)								
1304	ヘマトクリット (Ht)								
1305	血小板数 (PLT)								
	MCV (平均赤血球容積)								
	MCH (平均赤血球血色素量)								
	MCHC (平均赤血球血色素濃度)								
1306	網状赤血球数 (Ret)	EDTA加血液 2	13	冷 凍 精 不 可	自動化法	%	12 血液	1	透
1315	好酸球数	EDTA加血液 2	13	冷 凍 精 不 可	自動血球分析装置使用 (フローサイトメトリー法)	/ $\mu$ L	17 血液 2	1	
	喀痰中好酸球	塗抹標本 1枚以上	20	常	エオジノ染色	(-)	15 血液	2 3	
	鼻汁中好酸球	塗抹標本 1枚以上	20	常	エオジノ染色	(-)	15 血液	2 3	

1: 実施料は、「末梢血液一般検査」として一連の算定となります。

2: 同一検体で「好酸球数」および「白血球像」を行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定できます。

順コード	検査項目	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
1309	白血球像	EDTA加血液	2	13	自動化法	% 頁下-1参照：「血液像」 基準値	15	1	手透
1308					鏡検法		25		
3271	骨髓像 (マルク)	骨髓塗抹標本 3枚以上	20	常	ライト・ギムザ染色		788	7 14	依頼「骨髓像依頼書」を添えてご提出ください。 依頼依頼書には臨床所見などをご記入ください。 ※04
00550	血液塗抹標本	ペルオキシダーゼ染色	血液塗抹標本 2枚以上	20	常	DAB法	各27加算 血液	2 3 4	依頼「ペルオキシダーゼ染色」および「エステラーゼ染色」は、メタノール固定をしますと染色不良となりますので、ご注意ください。 ※04
03118		エステラーゼ染色	血液塗抹標本 4枚以上	20	常	αNBエステラーゼ法			
00587		鉄染色	血液塗抹標本 各2枚以上	20	常	ベルリンブルー			
03607		PAS染色				McManus変法			
01306		ALP染色	血液塗抹標本 4枚以上	20	常	朝長法			

\* 1 : ALP染色固定法：標本作製後、十分風乾し調整済み固定液 (-5℃～-3℃) にて固定 (5秒間) し、流水で15～30秒水洗いした後、十分乾燥してご提出ください。

1 : 同一検体で「好酸球数」および「白血球像」を行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定できます。

## 1 「血液像」基準値

### 自動化法

(単位：%)

好中球 (Neu)	38.1～73.3
好酸球 (Eo)	0.0～6.5
好塩基球 (Baso)	0.0～1.6
単球 (Mono)	1.8～9.4
リンパ球 (Lym)	19.3～50.4

### 鏡検法

(単位：%)

好中球 (Neu)	桿状核球 (St)	3.0～6.0
	分葉核球 (Seg)	45.0～55.0
好酸球 (Eo)	1.0～5.0	
好塩基球 (Baso)	0.0～1.0	
単球 (Mono)	4.0～7.0	
リンパ球 (Lym)	24.0～45.0	

# 血液学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 遠心 提出量 (mL)	容器	安定性 保存 方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考	
形態学的検査	04169	ペルオキシダーゼ染色	骨髓塗抹標本 2枚以上	20	常	DAB法	各40加算 血液	2 3 4	検体「ペルオキシダーゼ染色」および「エステラーゼ染色」は、メタノール固定をしますと染色不良となりますので、ご注意ください。 ※04	
	04172	エステラーゼ染色	骨髓塗抹標本 4枚以上	20	常	αNBエステラーゼ法				
	04170	鉄染色	骨髓塗抹標本 各2枚以上	20	常	ベルリンブルー				
	04171	PAS染色				McManus変法				
生血液類寄	00549	マラリア原虫	EDTA加血液 2	13	冷蔵	ライト染色	(-)	40 血液	2 3 検体塗抹標本の場合は、薄層塗抹標本と濃塗抹標本をご提出ください(標本は冷蔵厳禁)。 ※04	
出血凝固検査	1313	プロトロンビン時間 (PT)	血液 1.8	15	常	Quick一段法	70.0~130.0% 9.8~12.1秒 INR 0.85~1.15	18 血液	1	手
	1312	活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	血液 1.8	15	常	Langdell法	24.0~34.0 秒	29 血液	1	手
	1323	フィブリノーゲン (FIB)	血液 1.8	15	常	トロンビン凝固時間法	200~400 mg/dL	23 血液	1	
	2787	血中FDP	血液 1.8 ↓ 遠心 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 2週 凍		LPIA	5.0 未満 μg/mL	80 血液	2 3	検体 * 1 ※04
	00582	尿中FDP	尿 2	18	冷蔵	LPIA	100 以下 ng/mL	72 尿便	2 3	※04

\* 1 : 3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、1,500×g、15分間遠心分離し、血漿を凍結してご提出ください(遠心力の換算表124頁-2、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

項目コード	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	安定性 保存方法	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考
1319	D-ダイマー	血液 1.8	15	常	LPIA	1.00 未満 μg/mL	130 血液	1	項目 * 2
2819	プロテインC	血液 1.8 クエン酸血漿 0.3	15 02	2週 凍	LPIA	62~131 %	232 血液	2 5	検体 * 1
2820		血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 02	2週 凍	合成基質法	64~135 %	234 血液	2 3	※04
2823	プロテインS	血液 1.8 クエン酸血漿 0.3	15 02	2週 凍	LA (ラテックス凝集比濁法)	M 74~132 F 60~127 %	158 血液	2 3	検体 * 1
2822		血液 1.8 クエン酸血漿 0.4	15 02	2週 凍	凝固時間法	64~149 %	163 血液	2 5	※04
2804	プラスミノゲン活性 (PLG)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 02	2週 凍	合成基質法	71~128 %	100 血液	2 3	検体 * 1 ※04
2826	トータルPAI-1 (t-PAI-1)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.3	15 02	2週 凍	ラテックス凝集法	50 以下 ng/mL	240 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2806	アンチトロンビン活性 (AT)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 02	2週 凍	合成基質法	81~123 %	70 血液	2 3	検体 * 1 ※04
2818	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 02	凍	CLEIA	3.0 未満 ng/mL	176 血液	2 3	検体 採血方法の不適により異常高 値を示すことがあります(ツ ーシング採血法にてお願いま す)。 検体 * 1 ※04
2805	アンチプラスミン活性 (α <sub>2</sub> PI) (α <sub>2</sub> プラスミンインヒビター)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 02	2週 凍	合成基質法	85~118 %	128 血液	2 3	検体 * 1 ※04
2817	α <sub>2</sub> プラスミンインヒビター・ プラスミン複合体 (PIC)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.3	15 02	凍	LPIA	0.8 未満 μg/mL	154 血液	2 3	検体 * 1 ※04
00075	可溶性フィブリンモノマー (SF)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.3	15 02	凍	ラテックス凝集法	5 未満 μg/mL	93 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2815	可溶性フィブリンモノマー 複合体(SFMC)定量	血液 1.8 クエン酸血漿 0.4	15 02	8週 凍	LA (ラテックス凝集比濁法)	6.1 以下 μg/mL	221 血液	2 5	検体 * 1 ※04

出血凝固検査

血液

\* 1 : 3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、1,500×g、15分間遠心分離し、血漿を凍結してご提出ください(遠心力の換算表124頁-2、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

\* 2 : 深部静脈血栓症の診断には画像診断の併用が推奨されます。

1 : [TAT]および[SFMC]を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

2 : 保険請求の際は「フィブリンモノマー複合体定性」とご記入ください。

3 : 保険請求の際は「フィブリンモノマー複合体」とご記入ください。

4 : DIC、静脈血栓症または肺動脈血栓症の診断および治療経過の観察のために実施した場合に算定できます。

# 血液学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 遠心 提出量 (mL)	容器 ↓ 安定性 保存 方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2780	β-トロンボグロブリン (β-TG)	血液 2.7 ↓ 冷遠 乏血小板血漿 0.5	19 ↓ 4週 凍	EIA	60 以下	ng/mL 176 血液	3 ~ 9	検体 124頁-1参照: β-TG、PF-4 の採血方法 検体 124頁-2参照: 遠心力の換算 表 容器 * 1 ※04
2781	血小板第4因子 (PF-4)	血液 2.7 ↓ 冷遠 乏血小板血漿 0.5	19 ↓ 4週 凍	EIA	20 以下	ng/mL 178 血液	3 ~ 9	検体 124頁-1参照: β-TG、PF-4 の採血方法 検体 124頁-2参照: 遠心力の換算 表 容器 * 1 ※04
2831	トロンボ モジュリン (TM)	(血清) 血液 1 ↓ 遠心 血清 0.3	01 ↓ 4週 凍	CLEIA	12.1~24.9	U/mL 204 血液	2 ~ 5	検体 * 2 ※04
		(血漿) 血液 1.8 ↓ 遠心 クエン酸血漿 0.3	15 ↓ 4週 凍		8.7~22.7	U/mL 血液		
2801	フォン・ウィルブランド 因子定量 (第Ⅷ因子様抗原)	血液 1.8 ↓ 遠心 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 2週 凍	LA (ラテックス凝集比濁法)	50~150	% 147 血液	2 ~ 5	検体 * 2 ※04
2802	フォン・ウィルブランド 因子活性 (リストセチンコファクター)	血液 1.8 ↓ 遠心 クエン酸血漿 0.4	15 ↓ 2週 凍	固定血小板凝集法		129 血液		
27268	ADAMTS13活性	血液 1.8 ↓ 遠心 クエン酸血漿 0.2	15 ↓ 3か月 凍	EIA	0.10 以上 (10%以上)	IU/mL 400 血液	3 ~ 5	報告 IU/mL:国際単位表示と%をご 報告します。 検体 * 2 報告 * 3 ※04
27165	ADAMTS13 インヒビター定量	血液 1.8 ↓ 遠心 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 3か月 凍	Bethesda法	0.5 未満	BU/mL 1000 血液		
3324	HIT抗体 (血小板第4因子 -ヘパリン複合体抗体)	血液 1.8 ↓ 遠心 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 2週 凍	ラテックス凝集法	1.0 未満	U/mL 390 免疫	2 ~ 3	検体 血清は検査不可。 検体 * 2 報告 * 3,4 ※04

出血凝固検査

血液

- \* 1: 専用容器(テオフィリン、アデノシン、ジピリダモール、他入り)は、あらかじめご依頼ください。なお、ジピリダモールは蛍光灯に48時間晒されると不活性化するため、使用時までは遮光保存をお願いします。
- \* 2: 3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、1,500×g、15分間遠心分離し、血漿を凍結してご提出ください(遠心力の換算表124頁-2、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。
- \* 3: 測定値が0.10 IU/mL未満(10%未満)の場合、TTP(血栓性血小板減少性紫斑病)と判定されます。健常者参考値: 0.78 IU/mL以上(78%以上)
- \* 4: HIT抗体(IgG、IgMおよびIgA)を測定し、その濃度をご報告しますが、免疫グロブリンの各クラス別の濃度報告は行いません。

- 1: 膠原病の診断もしくは経過観察、またはDICもしくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合のみ算定できます。
- 2: 他に原因を認めない血小板減少を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合またはその再発を疑い測定した場合に算定できます。
- 3: 血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者またはその再発が認められた患者に対して、診断した日または再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できます。なお、血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付またはその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載するが必要があります。
- 4: ADAMTS13活性の著減を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合またはその再発を疑い測定した場合に算定できます。
- 5: ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として測定した場合に算定できます。

項目コード	検査項目	採取量 (mL) 遠心 提出量 (mL)	容器 安定性 保存 方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2832	ループス アンチコアグラント <small>(希釈ラッセル 蛇毒試験法)</small>	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	希釈ラッセル 蛇毒試験法 (dRVVT)	1.2 以下 (NR:Normalized Ratio)	273 免疫	2 3	検体 遠心分離条件の不適により偽 陰性となる場合がありますの で、ご注意ください。 検体 * 1
3124	ループス アンチコアグラント <small>(リン脂質 中和法)</small>	血液 1.8 クエン酸血漿 0.6	15 2週 凍	リン脂質中和法 (SCT)	SCT比 1.16 未満	273 免疫	2 5	※04
15072	C1- インアクチベーター活性 (C1エステラーゼインヒビター) (C1インヒビター)(C1インアクチベーター)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 1か月 凍	発色性 合成基質法	70~130	260 免疫	2 8	検体 * 1 ※04
2790	第Ⅱ因子活性 (F2)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	PT法	74~146	223 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2791	第Ⅴ因子活性 (F5)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	PT法	70~152	223 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2792	第Ⅶ因子活性 (F7)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	PT法	63~143	223 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2793	第Ⅷ因子活性 (F8)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	APTT法	62~145	223 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2794	第Ⅸ因子活性 (F9)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	APTT法	74~149	223 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2795	第Ⅹ因子活性 (F10)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	PT法	71~128	223 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2796	第ⅩⅠ因子活性 (F11)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	APTT法	73~136	223 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2797	第ⅩⅡ因子活性 (F12)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	APTT法	46~156	223 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2798	第ⅩⅢ因子定量 (F13)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.4	15 2週 凍	LA (ラテックス凝集比濁法)	70 以上	223 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2799	第Ⅷ因子インヒビター (F8INH)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	Bethesda法	検出せず	144 血液	2 5	検体 * 1 ※04
2800	第Ⅸ因子インヒビター (F9INH)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 2週 凍	Bethesda法	検出せず	144 血液	2 5	検体 * 1 ※04

出血凝固検査

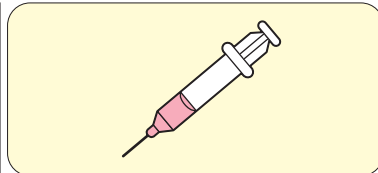
血液

\* 1 : 3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、1,500×g、15分間遠心分離し、血漿を凍結してご提出ください(遠心力の換算表124頁-2、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

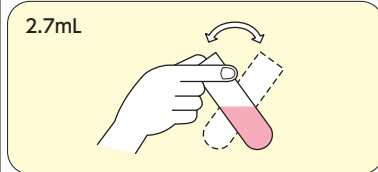
1 : 抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定できません。

## 1 $\beta$ -トロンボグロブリン ( $\beta$ -TG), 血小板第4因子 (PF-4) の採血方法

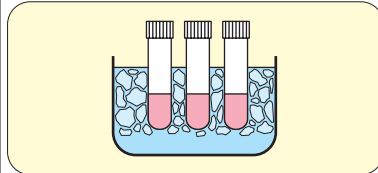
操作を2分以内に行う



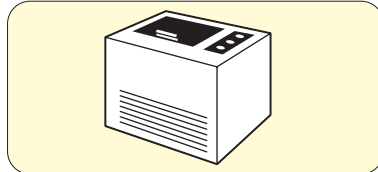
20ゲージ (19~21ゲージ可) の針を用いたポリプロピレン注射器で、血液3mLを採取してください。  
**真空採血管の使用は絶対に止めてください。** また、できれば駆血帯も使用しないでください。  
 10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採血してください。



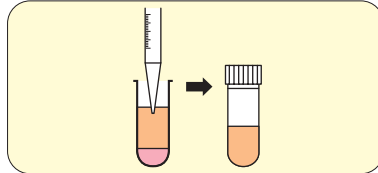
注射針を外して、あらかじめキャップを開けた専用容器 (容器番号19) に血液2.7mLを静かに移し、キャップを閉めてゆっくり2~3回反転して混合させてください。  
 指定の専用容器以外は使用しないでください。  
 専用容器は振とうさせないでください。



採血管を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れ、冷却してください。  
 砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。  
 角氷は使用しないでください。



砕氷水に少なくとも15分間静置後、採取血液を2,500×gで20分間、2~8℃で遠心分離してください。  
 (下表に2,500×gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。)  
 1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。



上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで0.5mL検体容器へ採取してください。  
 検体は必ずプラスチック製試験管に入れて凍結保存してください。  
 (1カ月安定)  
 血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けてください。

## 2 遠心力の換算表

1,500×g

半径 (cm)	回転数 (r.p.m.)
10	3,700
12	3,300
14	3,100
16	2,900
18	2,700
20	2,600
22	2,500
24	2,400
26	2,300
28	2,200
30	2,100

2,500×g

半径 (cm)	回転数 (r.p.m.)
10	4,700
12	4,300
14	4,000
16	3,700
18	3,500
20	3,300
22	3,200
24	3,100
26	2,900
28	2,800
30	2,700